

=岐阜高専=

第1回FD教科目連携協議会を開催

岐阜高専は、5月7日（木）「第1回FD教科目連携協議会」を本校多目的ホールにおいて開催しました。本協議会は、教育改革推進の取組の一環として平成26年度に立ち上げられたものであり、年間2回の開催が計画されています。

第1回目のテーマは「魅力ある授業のための取組みと英語の活用」であり、環境都市工学科 坂本淳講師及び電気情報工学科 田島孝治講師による2題の講演が行われ、60名余りの教職員が出席しました。

はじめに、坂本講師が、「来年度から英語で授業を行ってください」と言われても困らないようにするために」と題して講演。同氏は、昨年度1年間、三機関（長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、国立高等専門学校機構）連携・協働教育改革事業で同機構本部国際交流室調査員として参加したニューヨーク市立大学クイーンズ校、豊橋技術科学大学ペナン校等での研修プログラムの内容及びマレーシアの大学、ポリテクニクでの専門科目の授業の実施等についてビデオ映像を用いて報告しました。また、研修成果を活用して現在第3学年の授業で英語による講義を実践しており、その進行については、学生にアンケートを取るなどにより理解度を確認しながら学生主体の講義となるよう模索検討を重ねているとのことでした。

続いて、田島講師が「CTT+が教えてくれた魅力ある授業を行うために必要なもの～アクティブラーニングや英語授業のための技術～」と題して、インストラクターのスキルとして必要なプレゼンテーション・コミュニケーション・インストラクションの各スキルのポイントについて、ペアーワークを取り入れて講演を行いました。教授法には受動的なものと能動的なものがあるが、それらを適切なバランスで組み合わせ、その継続時間は10分以内が適切であり、切り替えるタイミングも大切であるとのアドバイスがありました。

講演終了後にはテーマに関して活発な意見交換が行われ、教職員の授業改善についての意識がさらに深まる良い機会となりました。



講演する坂本淳講師



ペアーワークを導く田島孝治講師